

## 災害情報の高度利用による地域防災力向上と防災力を活かした地域振興に関する研究

### 研究の概要

紀伊半島では、南海トラフ地震が今世紀前半に発生すると言われるほか、集中豪雨が近年多発しており、防災・減災に関するニーズが極めて高くなっています。このような背景を踏まえ、和歌山大学では、本学がこれまで得意としてきたソフト防災（防災教育や防災計画）に加え、理工学系の防災工学や災害情報学の分野を充実させることで、災害情報を集め・伝える技術の開発から利活用までを総合展開する研究プロジェクトを開始しました。現在は、「災害情報の高度利用」と「防災力を活かした地域振興」をキーワードに、災害情報利活用システムの開発、災害情報の高度利用による地域防災力の向上（すぐに避難できる文化の熟成、など）、および防災力を活かした地域振興（防災と産業、観光、環境などの地域資源との融合）に関する研究を進めています。

### 研究の特徴

本プロジェクトは工学、情報学、環境学、教育学、経済学、観光学などを専門とする研究者約30名で構成されており、テーマも多岐に渡っています。

#### <災害情報の高度利用>

- ① センシング技術（災害情報を取得するセンサ技術）
- ② 情報通信技術（災害情報を伝達・管理するネットワークシステム）
- ③ 災害地理情報（災害情報を科学的に解釈し意味づけする手法）
- ④ 災害情報利活用（科学的に意味づけられた災害情報を使った防災教育や避難訓練）

#### <防災力を活かした地域振興>

- ① 防災ジオツアー（防災資源の観光利用）
- ② 災害廃棄物（ダム流木の安定利用）
- ③ 安全安心な木造仮設住宅
- ④ 地域インフラ防災（インフラの防災機能評価）
- ⑤ 防災まちづくり・防災むらづくり
- ⑥ 地域文化防災  
（地域文化と災害の記憶の統合的継承による防災効果）



### 実用化が想定される分野

防災工学、災害情報学、防災計画

### 研究者からのメッセージ

防災・減災に関する幅広い研究を進めていますので、プロジェクト全体だけでなく、テーマ毎にも、共同研究の実施（開発）や地域への導入（実用化）に対応していきたいと思っています。

研究分野：社会・安全システム科学、自然災害科学、防災学

研究者の所属部局・職位・氏名 和歌山大学システム工学部 環境科学メジャー・教授・江種伸之

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp